

会 議 録

1 会議名

第3回上越市観光振興計画策定検討委員会

2 議題（公開・非公開の別）

- (1) 観光地域づくりセミナーの実施報告（公開）
- (2) 骨子案（フレーム（章立て））について（公開）
- (3) 意見交換（公開）

3 開催日時

令和元年10月30日（水）午後2時から

4 開催場所

上越市埋蔵文化財センター 学習室

5 傍聴人の数

1人

6 非公開の理由

なし

7 出席した者（傍聴人を除く。）氏名（敬称略）

- ・委員：丁野朗、平原匡、中牧俊明、齋藤光雄、板垣朗、南博幸、渡辺花、
亦野潤一、笹川枝里子、山下智史、北嶋宏海（欠席4名）
- ・事務局：産業観光交流部 市川部長、観光交流推進課 吉田課長、岩野副課長、
五十嵐係長、虎石主任、見波主任、小林主事

8 発言の内容

【五十嵐係長】

※配布資料の確認

それでは、議事に移りたい。丁野委員長、進行をよろしくお願いしたい。

【丁野委員長】

ある新聞にこの委員会のことを書かせていただいた。市民協働という新しい官民連携による観光ビジョンづくりという観点で書いた。ただし、計画を作ったら終わりではなく、ずっと継続していけるような体制づくりも含めて進めていきたいと思っている。

それと、こういう計画は私も何十件と作ってきたが、市民がぱっと手に取ったときに、「ちょっと見てみたいな」と思っていただけのように、また、自分に関係することだと思ってもらえるように、装丁も含めて、中身をなるべくきちんと作っていきたいと思っている。活発な議論をお願いします。

それでは、議事について次第に沿って事務局から説明をお願いします。

－ (1) 観光地域づくりセミナーの実施報告－

【五十嵐係長】

※資料の概要説明

【見波主任】

※「資料1 観光地域づくりセミナーの実施報告」に基づき説明

－ (2) 骨子案（フレーム（章立て））について－

【見波主任】

※「資料2 論点メモ」「資料3 第2回検討委員会の振り返り（主な意見の整理）」

「資料4 骨子案（フレーム（章立て））について」を基に説明

【丁野委員長】

フレームの全体像、構成について、また、内容に過不足がないかといった観点から意見をいただきたい。なお、今回はいわゆるビジョンがあって、そして各年度のアクションプログラムが回っていくというのが基本的な作り方である。このビジョンの実現に向けてどういう事業展開をしていくのかは、アクションプログラムで方向性が示されることになる。

ここで資料を読むため、少し時間を取りたい。

－各委員の資料読み込み（約10分）－

【丁野委員長】

それでは、各委員から意見を頂戴したい。

【北嶋委員】

委員長から話があったように、ビジョンがあり、アクションをどういう形で誰が回していくかはまだ見えないが、ビジョンということであれば、構成、章立てについては、特にコラムの挿入など、読みやすく分かりやすくなっていると思う。

ただ、観光が、いわゆる観光資源・スポットに行って見て回るだけのものから、体験に代わってきていると記載されているが、その内容の部分が少し足りないという気がする。

あともう一点、市民の皆さんやいろいろな立場の方々に、「一緒に頑張ろうよ」と呼び掛けている割には、どうやったら参画できるのか分かりにくい。どうやったら市民が参画できるか、横のつながりを包括的にまとめていく必要を感じる。

【丁野委員長】

2点とも大事なポイントである。体系的な視点が足りないという点について事務局からコメントをいただきたい。要するに、ビジョンに基づいたアクションプログラムの大きな方向性、施策や事業の方向性をどこで示すのか。

【吉田課長】

資料4の22ページに記載した図は、基本理念に基づき、共通の視点を踏まえて、AからDの4つの方向性を柱として取り組んでいくことを示した図であり、次回の委員会までに事務局としても内容を厚くしていきたいと考えている。そして第1章の最後に、方向性として示していくイメージである。

【丁野委員長】

続いて山下委員。

【山下委員】

読者である市民に投げかけるような言葉が使われており、こういう計画はあまりないようで新鮮に感じる。一般的な市民の方が、これを読んだときに「私は何をすればいいのか」というものが、コラムのような形で入るとなると良い。例えば、花を植えるとか、近くの公園のトイレを綺麗にするとか、身近にできることなど、市民の方がどうやって関わったらいいか、もう少し踏み込んだ形で例としてあげられるといいと思う。

それから、20ページに関連して当社内でも「デジタルマーケティング」を踏まえたうえで様々な営業方策を打たねばならないと言われている。4年間の計画

ということで、今時の一番新しい言葉に整理した方がいいと思う。

【丁野委員長】

先程の北嶋委員からも同意見があったが、コラムのような恰好でまとめるかどうか、事務局で考えはあるか。

【見波主任】

例示というのは重要だと思う。例えば15ページに「あなたの役割は何でしょう」という表を記載しているが、この表に例示するといった工夫の仕方を検討したい。

【丁野委員長】

事業によって違ってくることがあり、あまり固定的に書いてしまうと、かえって分かりにくくなるかもしれない。続いて笹川委員。

【笹川委員】

私は、市民代表として、読んでいてとても分かりやすいと思った。インバウンドや地域おこしで外部からいろいろな人が来てほしいということで、動き始めている市民団体や教育関係の方などのプレイヤーが実際に活動しているという紹介をコラムにするとイメージしやすいと思う。

最近聞いた話だが、高田高校の英語の授業で、生徒が旅行会社の社員になりきって外国人向けに上越の魅力をPRする授業が11月にあるそうだ。英語の先生から私も連絡をいただいて、参加する予定である。そういった活動をしている人がいることを知ると、市民の方も何かしてみようとか、ホームステイを受け入れたいという風になるのではないかなと思う。

あと、17ページでは、上越市の魅力は伝わりにくい部分があると書いてあり、金沢などと比べると、少し地味だという部分はあるが、市外出身の人に魅力を聞くと、上越市はそこがいいよねと言ってくれる人も結構いる。旅の上級者は、分かりやすい観光資源よりも、その土地の本質や、昔から伝わる知恵、そこに暮らす人との関りを求めている方も多いため、そのことも記載したらよいのではないか。

【丁野委員長】

一つのポイントだと思う。資源の魅力が「深い」ということを、どういう風に「深い」のか、いわゆる「見える化」というのが、大きな課題ではある。検討してみると良いかもしれない。

続いて亦野委員。

【亦野委員】

章立てについて、最初に課題が記述されるよりも、こういった語りかけてくるような形は分かりやすいと思った。

他の委員が述べたように、事業者や市民が実際に行動に移せるような記述があると良い。このビジョンを読んだときに、何かを実現するために実際どうするかという流れがあると理解が深まると感じる。4ページに「旅の形態の変化」という記述があるが、大型バスに乗ってのスポット型の観光から、個人の知的好奇心を満たすものに変っていくという変化が背景にあるので、このためにどうするかという部分があると現状に即したプランになると思う。例えば、長野にそばを食べに行きたいと思ったら、食べた後はこうする、というプランが作れる。ところが、うみがたりに行きたいと思ったら、その後どこへ行くかというのは、個人の頭の中で組み立てることができないのが上越なのかなと思う。個人での課題に対して、こういう対策がある、といった候補の記述があると非常に分かりやすいし、事業者の行動につながりやすいと思う。

もう一点、教育的観点というか、地元愛というか、長野の人は「そば」に自信があると思うが、上越にはそういうものが根付いていないため、小学校などの教育現場で取り組んでも面白いのかなと感じる。実は、午前中に春日新田小学校で授業してきたところ、そのような話になった。幼少期からの教育を積み上げていくことによって長期的な観光の体制ができるのではないかな。

【丁野委員長】

「観光教育」という分野は脚光を浴びている。子どもの頃からこのエリアに生活している市民に、どういう風に動いてもらうかというのも重要な点である。ビジョンの中でも、現在の案では明確に書き込んだ部分はないが、事務局の意見はどうか。

【吉田課長】

今回のビジョン策定にあたっては、「共感」をいただくことがまずは第一ということで現在の案につながっている。ワークショップも並行して行っているが、来年度以降も継続していく中で、その観光教育の部分をもっと掘り下げていくべきであると考えている。ワークショップの参加者は観光事業者が中心であるが、「広げて」いく意味では、これから考えていかねばならないと思う。

実際にビジョンにどこまで入れるかは今後検討する。また、今まで意見いただい

た具体的な事例については、ビジョンに入れ込む方向で検討したいと考えている。

【丁野委員長】

このエリアの「教育旅行」は、どういう現状か。事務局に聞きたい。

【市川部長】

上越市には「越後田舎体験」という取組がある。旧東頸城郡で20年以上前から行っており、平成17年の広域合併によって、松代町と松之山町が十日町市に合併したため、現在は、上越市と十日町市にまたがる取組となっている。利用客は関東圏中心であるが、最近は韓国や中国の子どもたちも迎えている。稲刈り体験や、海での体験を子どもたちに提供している。

【丁野委員長】

今、「ユネスコスクール」でがんの子ども同士の交流などが出てきている。地元の高校生と、どこかの高校生とが交流していくというのは、市民交流という観点からも良いことだなと思い、質問した。続いて渡辺委員。

【渡辺委員】

市民の方を巻き込んだ内容になっているのが、とても良いと個人的に思う。特に10、11ページが好印象で、「ありたい姿」「なりたい状態」を市民に示すことで、誰かがやってくれるという意識ではなく、「自分たちもできる」ことを示している。

他の委員も述べているが、上越の良さは、一見しては伝わりにくく、地味かもしれないが、そこに誇りを持つことが大事だと思う。

例えば、SNSに地元の風景を出すだけでも観光客に伝わっていくと思う。私も実際、昨日まで旅行をしていたが、旅行先のインスタグラムをいろいろと調べていく中で、旅行者から他の旅行者へどんどん良いところが伝染していくという実感があった。まずは市民の発信が第一で、そこに対して旅行者に「いいね」と思ってもらい、ファンになってもらって次につながるというのが大事で、こういうことが一人ひとり自分でもできるということをビジョンにも取り入れていただきたい。

今、上越・妙高・糸魚川3市で「はじっこにいがた」というインスタグラムの企画をやっているが、良い取組だと思うし、3市の中だけでなく、その外にも観光の面につながっていくと感じた。

【丁野委員長】

続いて南委員。

【南委員】

フレーム全体としては、前の計画の振り返りもあり、そこからつながってくるものとして分かりやすいし、読んでいて面白いだろうと思う。市で策定する計画ではあるが、市民に寄り添うというか、読者に投げかける言葉の使い方が良いと思って資料を読んでいた。

その上で、他の委員の指摘もあるように、具体的にこんなことも観光につながるよね、という記事があると、市民の方も参加しやすいし、「今まで自分でやってきたこともそうだ」という気づきにも繋がる。

観光は、地元愛を培うことが大事で、大人になってからも大切なことだが、子ども頃から、「地元はこういうところだよ」と伝える活動も大事なのだろうと思う。それは学校だけでなく、面白く体験できるような取組もあると良いし、必要だと思うので、このビジョンの中で方向性として入れていただきたい。

最後に1点、ビジョンとして方向性を示すものを作るだけでなく、その後動いていくアクションがあり、その後の検証を行うべきだが、数値目標も必要になると考える。

【丁野委員長】

他の自治体でビジョンを作ると、監査のフォローアップ委員会などを置くところが多いが、事務局の考えはどうか。

【吉田課長】

データの分析は非常に重要である。ただ、数値目標については、上位計画である市の総合計画の中で観光部門の具体的なものがあるため、それを目標としていきたいと考える。また、今回の事業進捗についてはアクションプランの中でしっかりと管理していきたい。

【丁野委員長】

続いて板垣委員。

【板垣委員】

まず、ボリュームについて、前回101ページあったが、今回は全体としてどれくらいのものになるか。

【吉田課長】

今回は「ビジョン」なので分かりやすさを重視し、机の傍らに置けるようなもの

をイメージしてきたため、前回のように、アクションプランなどは含めない。

【丁野委員長】

ダイジェスト版は作るのか。市民がぱっと見るときにはダイジェスト版で見てもらうというイメージか。

【吉田課長】

そうである。

【板垣委員】

そうであれば、今回の案を手にとったとき、見やすい工夫がされているし、前回と比べて手に取りやすいと思う。

さて、27ページに、スポーツレクリエーションが増えてきているというデータがある。12月に県立武道館がオープンする。リージョンプラザなどのスポーツ施設やスキー場もあり、スポーツコンベンションの記載があっても良いのでないか。

また、28ページに外国人旅行者の数が出ている。オーストラリアからが多いが、これは人数と宿泊数をかけた統計になっていて、冬に妙高に来て、一月くらい連泊しているため、より多く見える。これに関連した取組があってもよい。

なお、他の委員も述べているが、教育について、子どもに直接伝えることのほかに、親世代に対しての取組も重要だと考える。私は市の「まち・ひと・しごと創生推進協議会」の部会にも参加しているが、そちらでも同様の意見があった。親から子に伝わっていくという点も、加えていただきたいと思う。

【丁野委員長】

続いて齋藤委員に聞きたい。県下でいろいろな市町村が観光振興計画・ビジョンを作っているが、今回のような作り方は今までなかったのではないか。その点も含めてコメントいただきたい。

【齋藤委員】

委員長の発言のとおり、今までのいわゆる観光振興計画とはだいぶ違い、市民に寄り添う部分というのは重要であるし、新鮮に感じる。

普通は、10ページの「現状」「ありたい姿」というのが、第2章で記載されている「今までの評価」であるとか、「現状の課題」といったところから導かれてくることが多い。今回のものと他のものとを比べ、誰にとっての「ありたい姿」かが、見えにくいと感じる。また、数値目標は上位計画に記載され、行動計画はまた別に年

次計画を立てるといふが果たしてそれで十分なのかというところはある。

最後に、インバウンドについて、上越市は、現状では数はあまり伸びていないが、今後伸びる余地はあると思う。その辺りの取組の強化について、今のビジョン案だとなかなか見えにくいと思う。

【丁野委員長】

まず、市民目線で、「皆さんとこういう地域を作っていこう」ということを先に書いたが故に、こういう形になっている。ただ、それを実現するために、いくつか数値目標が出てくるということも自然な流れなので、整理が必要である。いわゆる行政計画として記載することと、ビジョンとして市民に示すものを少し書き分けていく必要があるかもしれない。数値目標は行政としては必要ではあるが、市民に提示しても伝わりにくいことが多い。そのために、現在の案はこういう形になっているが、両方の要素が入ったほうが良いかどうか、事務局でも検討いただきたい。

続いて中牧委員。

【中牧委員】

10ページに「ありたい姿」が記載されているが、4年間の計画のため、4、5年後のありたい姿ということかなと捉えられるが、10年後のより長期的な視点の「ありたい姿」も示した方がよいのではないかな。

4ページの観光のスタイルの変化のデータは、インバウンドと国内旅行とのデータが混在しているので、整理して記載してほしい。19ページのマーケット・セグメントの記載も日本人旅行者のものだけで、インバウンドの観点が抜けているので、補完すべきである。

14ページで担い手のイメージが書かれており、いろいろな方を巻き込んで、市民も巻き込んだ形で記載されているが、最終的にその核となる部分がこの表では見えてこない。皆さんの連携が重要であるものの、上越市の場合はやはり市が核となっていくということが必要ではないだろうか。

【丁野委員長】

日本人旅行者とインバウンドのデータは整理して記載した方が良さそう。

最後に平原副委員長。

【平原副委員長】

大きくは3点ある。

まず、教育というのは現在の潮流というか、トレンドというか、先生方が観光に注目しているのは事実である。私にも学校や旅行会社から問い合わせがある。トピックとして、例えば22ページのA～Dのどこかに入れてみると良いのではないかと。観光産業全体を考えたとき、人材は重要な要素であるので、その辺り工夫してもらいたい。

2点目は、15ページについて、観光というのはジェネラリストの世界で、何でもしないといけないという面もあり、記載されたプレイヤー間を横断的につなぐインタープリターであったり、博物館でいうところのキュレーターであったり、そういう人たちがきちっと存在していて、その人たちに前に出てきてもらわないといけないと思う。そのあたりのカテゴリーを作って、横に広げてあげると、どんな人が地域に必要なのか見えてくるだろう。トランスレーターというカテゴリーもある。

3点目は、前回、観光振興計画の委員を務めたときにも提案したが、観光産業の裾野は広く、観光事業者に従事する人が増えると観光産業が伸びているということであるので、事業者統計をきちんと入れた方がいい。宿泊事業や観光施設の従事者の推移が見えると、次の目標値が見えてくる。その統計のページを1ページ加えるといいのかなと思う。

【丁野委員長】

教育分野はこれから非常に面白い分野であり、我々も期待したい分野で、特に年齢の若い方は反応が早い。「観光」という言葉についても、今までの団体中心の観光から、すでに頭が切り替わっているため、そういう人たちが、教育分野を通して、地域の価値を発見していくというのが面白いと思う。

【平原副委員長】

ただし、学校の先生は忙しい状況だ。金融教育、IT教育とある中で、さらに観光面というと、先生方がパンクしてしまわないよう、サポートする仕組みもないといけないかなと思う。

【丁野委員長】

今、上越市では、出前講座というのはあるか。

【吉田課長】

観光分野でいえば、朝市で、授業で生徒が調べて、実際に朝市会場で物を売るといった体験をやっているところもある。

【丁野委員長】

人材という観点で言えば、結局、事業をいろいろと起こしていかなければならなくて、その事業を担う人材を、今いる人たちも含めて、育てる循環を作っていかないとビジョンが肉厚になっていかない。その仕掛けを、記載するかどうか。

【見波主任】

今回のワークショップを踏まえて、その役割や仕組みについて具体的にビジョンにも入れ込んでいくことが必要かと考える。

【丁野委員長】

その他に意見がある方は発言いただきたい。

【平原副委員長】

私は佐渡に10年ほどいたが、佐渡の小・中学校の総合学習は熱心に取り組みされており、先端的だった。伝統的な建物が残る集落に小・中学生が夏休みを利用して訪れたりしていて、上越もそういう分野にフィールドを作ってあげると、学校の先生も負担が少なく、地域に住む方とのふれあいもあり、地域の人にも逆に勉強することが出てくると思う。

【丁野委員長】

教育に関する意見が出ているので、私からも意見がある。

上越市は「歴史文化基本構想」を作ったのが8年くらい前で、かなり早かった。今年から文化財保護法が改正され、4月から地域計画策定が始まっている。基本構想を持っている自治体は全国で100余りになるが、その中で作る地域計画というのは、要するに文化財、あるいは文化をコンテンツにした観光振興計画であるとも言える。

歴史・文化の新しい見せ方をどうやっていくのか、文化財群として、高田のまちにあるものや直江津のまちにあるものがどういう風に捉えられるのか、また、それをどう活用するかという計画がいわゆる地域計画である。この計画策定にも市民が参画するといいと思っている。文化・文化財というのは当然、教育委員会の所管になっているはずだが、観光という視点からも関心を持っておく必要はあると思う。

【市川部長】

上越市では、5年前に高田開府400年を迎え、その際、高田城が作られる以前には、まず春日山に城があり、その後直江津に福島城が作られて、高田城ができた

という歴史を、市民に分かりやすい形で、開府400年の記念の冊子として発行した。上越市においては歴史・文化は重要な位置を占めているので、教育委員会とも連携、調整して検討したい。

【丁野委員長】

観光の計画やビジョンには、いろいろな分野が含まれる。中心市街地のまちづくりの計画や、ブランド・産品づくりはいろいろな課でやっているが、市民からは一緒に見えているはずである。文化も含めて、この計画の中でどういう風に見せていくか、行政としては制約もあると承知するが、市民に見せるとすれば、全体像も少し見せておいたほうがいいのかという気がしている。その辺り吉田課長にお聞きしたい。

【吉田課長】

今回の観光ビジョンとアクションプランについて、ビジョンは理念を伝えるものとして、今回は観光振興計画がビジョンにあたるということで、それをどこまで厚くしていくか議論いただいているところであるが、先程からのコラムの挿入や、具体的な事例の紹介、教育の面、そして今の歴史・文化について、どこまで記載するか事務局でも引き続き検討したい。

【丁野委員長】

委員からも、今、意見が出ない部分でも後程メールなどで意見をいただきたいと思う。

今回は、ビジョンの骨格について、大きな方向性としては皆さんから了承いただいた。細かな見せ方や、教育分野の話、人材をどう育てていくか、その育成の場をどう確保していくかなど、いろいろな意見が出たが、何といても市民がその気になってもらう環境と、その仕掛けを作らないといけないと考えている。

例えば、以前、総務省が「全国わがまちCMコンテスト」を実施し、私は審査員を務めた経験がある。30秒で自分のコミュニティーをPRするというもので、必要な機器をメーカーから借りたりしながら意外とお金がかからないでも作ることができるので、地元の人が出てきて、生の声で地元を自慢する面白い取組だった。このように気軽に市民が参加できるようなプログラムも考えたほうがよいかもしれない。

また、「役割」と「推進」があって、実際にどう推進していくかが見えないと市民

も動けないというところもある。役割分担にとどまらず、リーディングプロジェクトがこれからビジョンにぶら下がってくると思うので、その事業を具体的にイメージしたとき、誰が何をやるのかまでイメージしておかないといけない。その推進体制をどうしていくかというのも、少し先の議論ではあるが、整理しておく必要がある。

最後に、先程も話したが、この上越市は歴史のあるまちなので、現代での見せ方、外国人旅行客への見せ方を工夫して、生かしてもらいたい。市民から見て、歴史をどう生かしていくかというようなことも、ビジョンに少し記載してもよいかと思う。

ここで意見交換を終了する。それでは事務局へお返しする。

【小林主事】

※事務連絡

【市川部長】

・閉会のあいさつ

9 問合せ先

産業観光交流部観光交流推進課企画係 TEL : 025-526-5111 (内線 1815、1816)

E-mail : kanko@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料も併せてご覧ください。